

“川に行くべえ” ～石巻かわまちづくりのご紹介～

石巻市 建設部 次長（河川港湾担当） ま やま たかゆき
間山 隆之

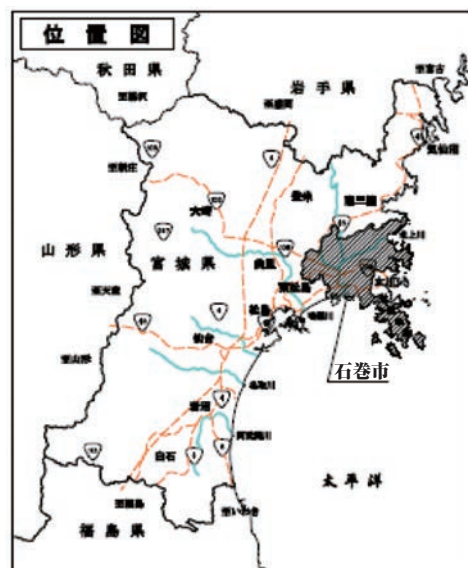
1. 石巻市のご紹介

石巻市は東北最大の河川である北上川の河口部に位置し、古くは仙台藩はもちろん、南部藩をはじめとした上流の藩からの舟運による米などの輸送拠点として、全国有数の交易都市として栄えるなど川とともに発展してきた街です。

現在、宮城県では政令指定都市仙台市に次ぐ第2の都市で（図－1）、世界三大漁場のひとつで有名な金華山沖での漁業はもとより、昭和39年に新産業都市の指定を受けてからは、石巻工業港での紙・パルプ・飼料工場が立地するなど、工業都市としても発展を続けています。

また旧北上川の中瀬^{なかぜ}には平成13年に石ノ森萬

画館がオープンし、「マンガの街・石巻」として聞いたことがあるかもしれませんね（写真－1）。



図－1 位置図



写真－1 マンガの街としてロボコンやサイボーグ 009 がお出迎え

2. 川村孫兵衛重吉と北上川の改修

(1) 川村孫兵衛重吉って？

冒頭でも申し上げたとおり、石巻は北上川の河口部に位置しており、古くから川で発展してきた街です。その発展は川の改修工事によるものが大きく、その改修の指揮を執ったのが、独眼竜で有名な戦国武将伊達政宗の家臣川村孫兵衛重吉（以下、親しみをこめて「孫兵衛さん」といいます）です（写真－2）。

孫兵衛さんは、長州阿武（現：山口県萩市）の生まれであり、初めは地元の大名である毛利家に仕えていましたが、関が原の合戦後浪人となり（毛利輝元は西軍総大将のため領土を減らされた）、近江国（現：滋賀県）にいたところ、伊達政宗に見いだされ家臣となりました。諸説ありますが、正宗は若くして土木工学・測量学などに深く通じていた孫兵衛さんの技術力の高さを耳にしてスカウトしたと言われています。

(2) 孫兵衛さんの北上川改修工事

孫兵衛さんが手掛けた改修工事で最大と言われ



写真－2 旧北上川河口を望む日和山に建つ孫兵衛像

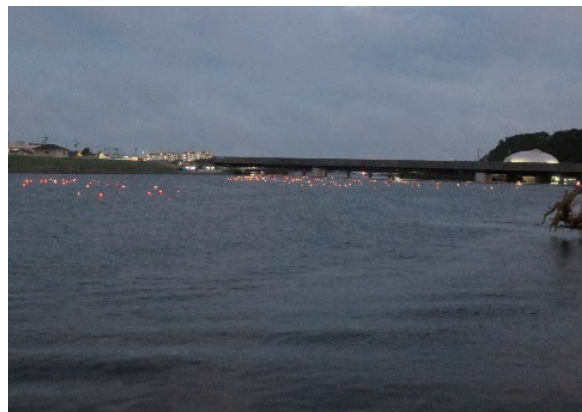
るものが、1616年（元和2年）から始まった北上川改修工事です。河道の付替や堤防工事により水害の防止、新田開発に寄与するものとなりましたが、さらには舟運の便が良くなったことを受け、仙台藩の藩米の集荷地になったほか、北上川の上流域に領地のあった一関・南部・八戸など各藩から米などの多くの物資が河口である石巻に運び込まれ、石巻は物資の集積地となり、河口には多くの蔵が立ち並ぶなど栄え、仙台藩にとって重要な地となりました（図－2）。

(3) 川に感謝する『石巻川開き祭り』

このように石巻発展の礎を築いた孫兵衛さんは石巻の英雄です。今でも孫兵衛さんの功績を讃えたお祭り『石巻川開き祭り』が開催され、孫兵衛船という船でのレースや流燈、花火大会など石巻地方の最大のお祭りとして多くの人手で賑わいます（写真－3）。お祭り行事の多くが「かわが主役」となっており、このようなお祭りはあまりお目にかからないと思います（花火大会の会場では利用されますが）。まさに川との結びつきが深い石巻ならではの、と言えるのではないのでしょうか。



図－2 孫兵衛の行った北上川改修工事（北上川下流河川事務所提供）



写真－3 左：孫兵衛船競漕ゴール前デッドヒート 右：東日本大震災の鎮魂も込めた流燈

(4) 川が漁港？

北上川河口は明治中期以降、鉄道網の発達による内陸舟運の衰退や場所の狭さによる大型船舶の入港ができないことなどで、急速に衰えていきました。

その後、河口湊は金華山沖漁場を抱える水産業の基盤となる漁港へと姿を変えていきます。1918年（大正7年）から始まった北上川河口改修工事と、1929年（昭和4年）に合同魚市場が開設されたことで漁港の評判は高まり、昭和10年には近海カツオ水揚げ日本一を記録しています。漁港の位置は北上川の河口部であったことから、河口の水面には街の繁栄を表すように多くの漁船で埋め尽くされていました（写真－4）。舟運ではありませんが、河川改修工事がきっかけと考えれば、これも孫兵衛さんの功績のひとつと言っても過言ではないかもしれませんね。



写真－4 旧北上川河口を埋め尽くす漁船
（石巻市教育委員会提供）

3. 石巻かわまちづくり

(1) 東日本大震災

石巻という名前が全国に知れ渡るようになったのは、皮肉にも平成23年3月11日、14時46分に発生した東日本大震災によるものではないでしょうか。

この震災では、国内観測史上最大となるマグニチュード9.0を観測。石巻でも震度6強の激しい揺れと、その後に沿岸域全域に襲来した巨大津波は、牡鹿地区の観測地点で最大8.6m以上を観測、死者3,184名、行方不明者417名、被災住家は全住家数の約8割弱の56,707棟、うち約4割の20,043棟が全壊にのぼる未曾有の大災害となりました（写真－5）。

石巻は震災による『最大の被災地』として知られるようになりました。ただ、このことは石巻へ全国からご支援をいただくことにつながるきっかけにもなったかもしれません（数値は平成30年3月：警察庁発表）。

(2) 河川堤防整備

震災からの復旧復興を目指し、河川堤防整備が始まりました。石巻は中心街を旧北上川という大河川が流れているにもかかわらず、河口部は震災直前に高潮による被害防止の浸水防止施設が一部整備された状況であったため、堤防整備は地元の



写真－5 日和山から津波引き波時の旧北上川中瀬地区を望む（平成23年3月11日17:00撮影）

悲願でもありました。

一方で、石巻は川に対する地域の思いが非常に大きいことから、140回を超える説明会※を開き、地域の声をお聞きしながら丁寧に進めているところです。

※回数には、旧北上川だけでなく北上川での説明会も含まれます。

(3) いしのまき水辺の緑のプロムナード計画

「プロムナード」とは、フランス語で散策・散歩道という意味です。この計画は、前述した石巻の歴史をつないでいき、市民や観光客が気軽に水辺に集い、街がにぎわい、人々が憩いを楽しむ。そして、将来を担う子供たちがふるさと石巻を学ぶことのできる、石巻らしい水辺を創出したい、という思いで震災直前の平成23年2月に策定しました。その後の震災を経て、骨格は変えずに復旧復興に向かって整備される新たな堤防護岸等を活かし、背後のまちと水辺のつながりを生み出し、新たな魅力をもった「まち」を構成する要素として利活用方策について見直しを図っています（図－3）。

というように、『石巻かわまちづくり＝堤防整備＋プロムナード計画』という図式が概ねお解りになっていただけたと思います。

では、具体的な整備が進む中央地区での取り組みをご紹介します。



図－3 いしのまき水辺の緑のプロムナード計画

詳細は石巻市役所ホームページ：トップページ→市民の方へ→くらしと仕事→都市開発・まちづくり からご覧ください。

4. 整備が進む中央地区 かわまちづくり

石巻のかわまちづくりの中でも右岸側の中央地区という箇所は、『新たな石巻の顔』として堤防と背後の構造物の隙間を埋め『堤防一体空間』という最大17mの空間を整備し、憩い癒し・にぎわいをコンセプトにデザインを検討してきました（図－4）。

また、市で盛土を行うためには土留め壁が必要となりますが、建物が背後にない場所については、壁が周囲に圧迫感を与えないよう堤防一体空間の幅との兼ね合いを工夫しています（図－5、6）。

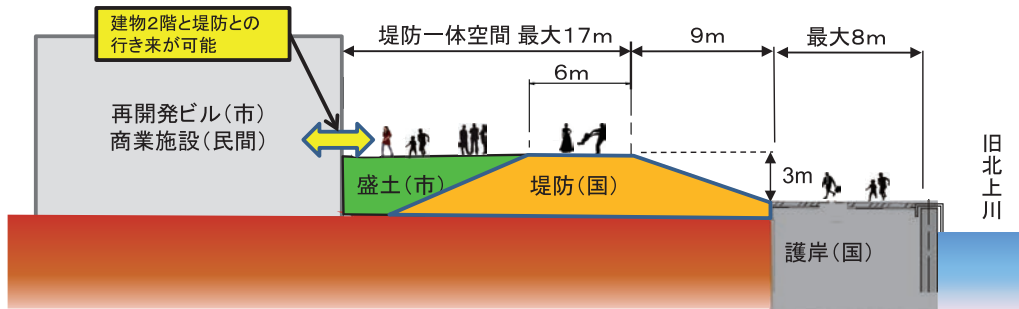


図-4 堤防一体空間の構造



図-5 空間の幅を最大限確保しようとする壁高が3mとなり圧迫感が強い



図-6 空間の幅は狭くなるもののキッチンカーなどの配置は可能であり壁高も目線程度

この堤防一体空間の一部が昨年の5月に完成し、地域の皆さんへお披露目会を開催しました（写真-6, 7）。

また、堤防の背後には、生鮮市場や立体駐車

場・交流センターなど民官による交流拠点となるべく施設も続々オープンしており、ハード面での整備が着実に進んでいるところです（図-7）。



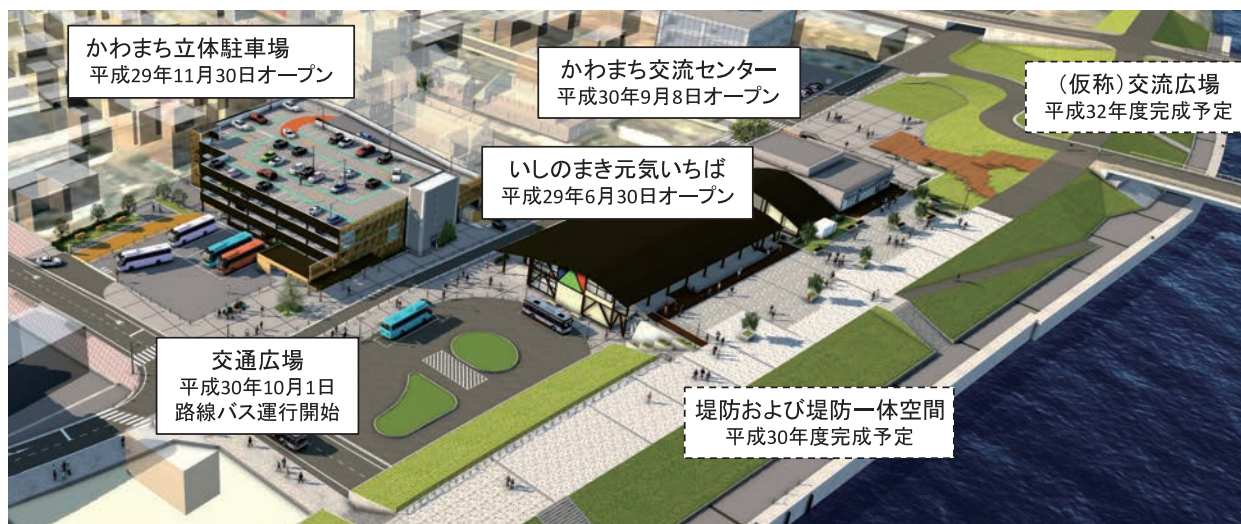
写真-6 中央1丁目地区完成

背後の建物には復興公営住宅や離島航路待合所、デイケアサービスなど入居しており、憩い・癒しがコンセプトです



写真-7 中央1丁目地区完成お披露目会

背後の復興住宅にお住まいの皆さん、デイサービスご利用の皆さんと記念撮影



図－7 中央2丁目かわまち整備イメージ

5. これからの「石巻かわまち」

前述の「石巻川開き祭り」の花火大会で、堤防一体空間を有料の指定席として活用する試みを今回初めて実施し、予定された席は完売となりました（写真－8）。



写真－8 花火大会での観覧席での活用

これからは、せっかくできた場所をどのように活かしていくのか、が課題となります。将来的には商いを堤防上でできるよう都市・地域再生等利用区域指定を受け、交流拠点としてさまざまな催しを行い、市内外からのお客さんにぎわう場所になることを期待しており、そのために産学官で利活用に関しての意見交換を続けています。意見交換では、大きなイベント以外での集客や管理の範囲などについて意見が出ており、地域の『本気度』が伝わるところです。

周辺では引き続き堤防や橋梁の工事が行われており、かわまちづくりも平成32年度末の整備完了を目指しているところです。

題目の「川に行くべえ」の「べえ」は、石巻地方の「行こう」の方言と川村孫兵衛さんの「べえ」を掛けたものです。本稿にもあります昨年9月にオープンしました「かわまち交流センター」の愛称も「かわべい」です。読者の皆さんが移り変わる石巻の「かわまち」に『行って見るべえ!』とと思っていただけますと幸いです。